

資産運用の読み物

経済・投資のあんちょこ



VOL.11

ROEを重視する企業が増えているのはなぜ？

今回の話題

最近、ROE（Return On Equity＝自己資本利益率）を重視する企業が増えてきています。ROEは、これまでも株式投資をする上で重要な指標とされてきましたが、なぜいまROEを重視する企業が増えてきているのでしょうか？

ROEは効率よく稼いでいるかを示す指標

- ROEとは企業が株主から調達した資金を元手に、どれだけ効率よく利益を出せたかを示す指標で、その期の純利益を自己資本で割って求めます。
- 例えば自己資本が1億円で1,000万円の純利益を出すA社のROEは10%ですが、500万円の純利益を出すB社のROEは5%です。この場合、ROEの高いA社のほうが、利益を上げる能力が高く、株主重視の経営をしていると判断されます。
- 日本企業の平均的なROEは8.3%(TOPIXベース、2015年3月末現在)で、米国企業の14.2%(S&P500種指数ベース、同)に比べて低い傾向にあります。しかし、ROEが株価指数や投資信託の銘柄選定の基準にもなってきたことから、日本でもROEの重視を経営目標に掲げる企業がますます増えていくと考えられています。
- ROEを重視する企業が増えることで、今後、国内外の投資家の動きも活発になり、日本経済の成長にもつながることが期待されます。

ROEの計算方法

$$\text{ROE (自己資本利益率)} = \frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}} \times 100$$

【例】

同じ自己資本1億円で、利益が1,000万円のA社と利益が500万円のB社の比較

<A社>	<B社>
$\frac{1,000\text{万円}}{1\text{億円}} \times 100$	$\frac{500\text{万円}}{1\text{億円}} \times 100$
ROE 10%	ROE 5%

A社のほうが
効率よく利益を出している

Point

ROE(自己資本利益率)を基準とする指数や投資信託が登場し、投資家の注目が高まっていることから、企業もROEを重視するようになった。